

## 代表質問



きだ のぼる  
木田 昇  
(大分市)

### ①物価高騰下における賃金引上げについて

(質問) ウクライナ危機などの影響により、世界規模で不確実性が高まり、原油や穀物の供給不足が長期化し、世界的に物価高騰の状況が続いている。大分地方最低賃金審議会は、2022年度の県内の最低賃金を32円引き上げ、854円とする答申を大分労働局長に提出し、本年10月5日から適用される。

現下の経済状況では企業側も思い切った賃上げに慎重にならざるを得ない。物価高に苦しむ労働者を支援するため、「賃金上がる経済」を目指し、県としても賃上げを促進していくべきと考えるが県の見解は？

(答弁) 先の六月補正で国の業務改善助成金の対象となる事業者の負担を軽減する制度を予算化した。加えて、生産性向上と賃金引上げを併せて行う事業者を

支援する制度も新たに創設した。持続的な賃金引上げを可能とするには、消費の活性化や労務費の上昇分を適切に価格転嫁できない企業間取引の適正化などを支援することも必要。今後とも、中小企業等が賃金引き上げに踏み出せる環境づくりに取り組む。

### ②子どもに関する施策について

(質問) 来年4月に発足する「こども家庭庁」は、児童虐待や子ども貧困対策など、主に厚生労働省や内閣府が所管してきた施策を一元的に担うこととされた一方で、幼児教育や義務教育は、引き続き文部科学省が担当することのこと。子どもを取り巻く様々な問題を巡っては、福祉と教育の両部門で並行して対応する必要があるため、教育部門に関しても、「こども家庭庁」が積極的に関与できるようにしてもらいたい。

県は「こども家庭庁」に何を期待し、今後どのように子どもに関する施策に取り組むのか？

(答弁) 「こども家庭庁」には次の三つを期待している。一つは、省庁の縦割りを排すべく大胆な調整機能を発揮し、切れ目のない支援策を強力に推移していただきたい。二つは、子どもの視

点に立ち、子どもの最善の利益を常に第一に考える「こどもまんなか社会」の実現。三つは、思い切った支援策の拡充と、そのための安定的な財源確保に取り組んでいただくこと。今後とも、「こども家庭庁」と連携して、全ての子どもが誰一人取り残されることなく、健やかに育つことのできる大分県を築いていく。

#### 【その他の質問項目】

- ・ 社会経済の変容を踏まえた地方創生
- ・ 大分空港・宇宙港将来ビジョン
- ・ 業務継続計画
- ・ コロナ対策における情報発信
- ・ 半導体産業の活性化
- ・ 大分港大在地区の利用促進
- ・ ポストコロナを見据えた観光振興
- ・ 部活動の地域移行
- ・ 将来を担う県職員の確保
- ・ 労働委員会における相談体制



## 一般質問



ひらいわ じゅんこ  
平岩 純子  
(大分市)

### 人権が大切にされる県政を願って

ここ数年、世界で起こる様々な事象を受け止めながら、決して心穏やかに生活できない、でも何もできないちっぽけな自分を感えています。

ロシアの侵略、核共有論、独裁者の出現、「日本は民主主義国家だ」と言われてきましたが、民主主義を唱える前に人としての何かが欠落している社会に生きている。「人権意識が欠落しているのでは」と考えます。

県では、**人権尊重社会づくり推進条例**の下、人権尊重の温かい大分県づくりに努めてきましたし、これからも続けていきたいと知事は言われました。

**女性支援法が議員立法で成立しています。**これまでの困難な問題を抱えた女性への支援は、「保護」を目的としたものでしたが、新法では「救済」にとどまらず「支援」を根底に置き、婦人相談所の機能も充実させ、民間との協働を図り、女性が抱えている就労・貧困・暴力・家庭

関係などの問題と丁寧に関わりながら女性とその子どもへの支援を充実させていくと答弁されました。

**教職員不足は、深刻です。**全県で53名(義務制49名、特別支援2名、高校2名)不足しています。教育関係者は常時人探しをしています。解決できませんし、半ば諦めています。さらに今年の教員採用試験競争倍率は小学校1・0、中学校1・0でした。来年度は今以上に厳しいことになるということです。

教員不足には様々な要因が挙げられますが、最も大きな原因は、2011年に始まった「概ね10年3地域」制度だと考えます。教員は、地域に認められ保護者と地域の方々と教育を継続しますが、それが十分できない状況は、子どもや保護者に対して安全・安心な教育ができていないということ、そして大分県を敬遠する若者の原因になっています。「対策会議を持って行き過ぎた広域人事を解消するべきだ。」この10年言い続けてきましたが、県教委の答弁は「採用試験の見直しや再任用の促進を図るとともに、あらゆる手段を講じて人材育成に取り組みたい」といつも通りの域を出ることはありませんでした。質問のたびに毎回裏切られ残念です。

その他、「**関係人口づくり**につ